**２０１９年（平成３１年）度事業計画**

１．事業を取り巻く環境

　2019年（平成31年）2月1日現在、福島県の高齢化率は30％を超え31.1％となっており、当法人が立地する郡山市も、県内では比較的高齢化率が低いとはいえ、高齢化率27.1％と、高齢化率21％以上が「超高齢社会」と定義づけられる中、極めて高い高齢化率となっています。（参考　全国28.2％　福島県最高＝金山町：59.1％　最低＝西郷村：25.1％）

　こうした数字を見ると、高齢者介護事業を行う当法人の運営は今後も順調に進むように見えますが、同業他事業者の増加による稼働率の低下、介護人材の不足、更には2025年に高齢者人口がピークを迎えた後の対応など、課題は山積しております。

**⑴介護報酬改定**

2018年度（平成30年度）は、診療報酬と介護報酬のダブル改定の年となりました。本来介護報酬は3年に1度の改定であり、次の改定は2021年度となりますが、今年10月に消費税の増税が予定されていることから、今年10月のサービス提供分から平均0.39％増額改定されることとなりました。併せて、特養、ショートステイの食費・居住費が、2006年度改定時に制度が創設されて以来、初めて増額されることとなっています。加えて、巷で「10年勤続で月額8万増」と言われている介護職員処遇改善加算の新加算については、事業所ごとの対象人数は全く考慮されていなかったり、支給方法について「事業所の判断」とされている部分があったりと混乱することも多く、更に情報収集をしながら適切に対応しなければ、職員からも利用者家族（支払者）からも不信感を持たれかねないと受け止めております。

**⑵人材不足**

　福島県における2018年（平成30年）第4四半期（10月～12月）の有効求人倍率は、全産業を見ると1.52倍ですが、介護職については3.57倍となっており、採用活動の困難さは数字に確実に現れています。

　殊に、「介護福祉士」有資格者の人材不足は深刻さを極め、前年までの15～6万人から半減の7万9千人の受験者となった2016年度国家試験の受験者数から比べると幾らか持ち直したものの、2017年度も9万2千人と10万人を割り込んでいます。同じく2018年度の介護福祉士養成校への入学者は、全国で定員の約44％の6,856人となっており、その内外国人が1,142名と、入学者の17％を占めている状況です。福島県内においても、老舗の福島介護福祉専門学校が新年度からの募集定員を半減させるなど、益々採用が難しくなる状況が予測されます。

**⑶競合**

　郡山市の要支援・要介護認定者数は、2018年（平成30年）10月時点で、

・要支援1＝2,474人　　要支援2＝1,973人　　　　要支援計＝4,447人

・要介護1＝3,853人　　要介護2＝2,384人　　要介護3＝1,625人

・要介護4＝1,953人　　要介護4＝1,193人　　　　要介護計＝10,960人

　総計15,407人となっています。

　また、サービス供給量については、

①．特養、老健、療養型医療施設、グループホームなどの居住系サービスが

　4,608床

②．ショートステイ（空床利用型を含まない）が

　504床

で、居住系の合計が5,112床。

③．通所介護、通所リハビリ、認知症対応型通所介護などの通所系サービスが

　1日約3,000人分

であり、15,000人の要介護・要支援認定者の１／３が施設サービスを利用可能なうえ、全員が希望しても、1人週1回の通所系サービスの利用が可能な計算となります。

　この数字から、郡山市内における居住系サービス及び通所系サービスは、現状において既に、飽和状態から供給過剰気味であると見ることができます。従いまして、この状況を生き抜くためには、法人としても事業所としても、ハード面、ソフト面ともに、利用者や居宅介護支援事業所のケアマネジャー等に対して強くアピールできる特色を持つことが、必要不可欠であると考えます。

２．2019年度（平成31年度）事業計画

**★　法人の概要**

　　・　法人の設立　　　1998年（平成10年）12月22日

・　スプリングガーデンあさか開設　　　2000年（平成12）年4月1日

・　グループホームすぷりんぐ開設　　　2004年（平成16）年9月1日

・　役員等数　理事　　　6名

　監事　　　2名

　評議員　　7名

・　法人組織図　　別紙のとおり（2019年4月1日予定）

**★　法人全体職員数（2019年度配置予定）**

（単位：人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 合　　計 | 常勤職員 | 非常勤職員 | 外部委託 |
| １３７ | ９８ | ２８ | １１ |

**⑴　2019年度（平成31年度）の重点事業計画**

**1）人材確保の推進**

**①新規採用者の安定的確保**

　　　当法人においては、ここ数年間退職者数が採用者数を上回る状況が続いており、年度初めを欠員の状況で迎えざるをえない状態です。幸い、各事業所とも基準定数を下回るような状況ではありませんが、研修への参加や年次有給休暇の取得が難しくなりつつあります。

　　　こうした状況に対し、これまでも次のような対策を図ってまいりました。

　　　ア　福島県内の介護福祉士養成校（専門学校、短大、大学）に対する訪問による求人活動。

　　　イ　東北六県、北関東三県及び新潟県の介護福祉士養成校（専門学校、短大、大学）に対する求人票・募集要項の郵送による求人活動。

　　　ウ　県中地区及び県南地区の高等学校に対する訪問及び求人票の郵送による求人活動。

　　　エ　ハローワークを通じての求人活動。

　　　オ　新聞の折り込み広告への求人情報の掲載。

　　　カ　介護職員初任者研修実施機関への講師の派遣。

　　　キ　法人独自の就職説明会の開催。

　　　ク　法人各事業所の実習生に対する就職情報の提供。

平成30年度は7,000人を全国の介護保険事業者、医療機関で争奪戦が繰り広げられましたが、2019年4月1日付での定期採用予定者として、介護職員5名（介護福祉士養成専門学校卒4名　高卒1名）の内定を出すことが出来ましたが、これまでの学校訪問や、他施設で実習困難となった学生の実習受入れ、研修や行事の案内、学校からのイベント出席依頼への対応などにより、養成校との地道な関係づくりを行ってきた成果が実を結んだものと自負しております。しかし今後、従来通りの求人活動では、新卒有資格者の確保が更に困難になることは明らかです。

　　　ア　高校、介護福祉士養成校（専門学校、短大、大学）の就職担当者向けの就職説明会の開催。

　　　イ　法人以外の看・介護職員も参加可能な「公開講座」の開催。

　　　ウ　ボランティア養成講座、家族介護教室などの開催。

　　　エ　介護福祉士養成校進学者に対する奨学金の貸与

　　等、近隣同業施設に先んじた対応を検討し、単年ではなく中・長期的なビジョンを持って、就業対象者に加えて、その家族をも含めた「働きたい、働かせたい職場」イメージの醸成を更に図らなければならないと思います。

**②既存職員のモチベーションの安定による離職率の抑制**

　　　職員の安定的な確保は、「採用」に加え「離職率の抑制」が大きな鍵であると言えます。2018年10月に開催された「学習療法実践研究シンポジウムinふくしま」において、須賀川市の施設が「学習療法の導入・実践によって職員の離職がゼロになった」という事例発表を行っておりました。一つのプログラムの導入によって職員のモチベーションが改善するほど単純なものではないと考えますが、自分の仕事の成果を実感できないことによる自信ややりがいの喪失、いわゆる「燃え尽き症候群」が、介護職の離職の大きな要因の一つであることはかねてより言われていることです。

　　　「認める・誉める」ことによって生活意欲の向上を促し、心身能力の維持・改善につなげるという、学習療法やふまねっとの実践は、対入居者。利用者には行っていますが、スタッフ相互にも有効な対応であることを認識し実践していきます。

　　　自分の仕事の成果を対外的な大会・研修会等で発表し評価を受けるという取り組みは、これまで、スタッフの業務負担、精神的な負担が増すことを懸念して積極的ではありませんでした。しかし2018年度、法人の取り組みが月刊誌「経営協」で取り上げられたことや、デイサービスセンターの取り組みが東北ブロック研究会で「最優秀賞」を受賞したことを受け、他の施設・事業所よりも優れた取り組み、先駆けた取り組みを行っている法人であることを内外にアピールすると同時に、いずみ福祉会で仕事をしていることにスタッフが自覚と誇りを持つことができるよう、研修会や大会などでの事例発表や、地域からの講師派遣要請などの対外的なＰＲ機会を積極的に求めて行くこととします。

**2）地域における公益的な取り組みの推進**

　　ア　生活保護受給者等の低所得者に対する、社会福祉法人の利用者負担

軽減の継続的な実施

　　イ　生活保護受給者等の低所得者に対する、社会福祉法人いずみ福祉会独

自の利用者負担軽減実施・・・特養入居者のうち、最大2名に対して

居住費減免の実施

　　ウ　地域交流事業としての「スプリングフェスタ」の開催

　　エ　認知症予防、転倒予防の地域貢献事業「いずみ健康楽習塾」の開催

　　オ　地域住民の健康増進、認知症予防に寄与するため、ボランティアを養

成する「ふまねっと講演会」、「ふまねっと資格講習会」の開催

　　カ　地域包括支援センター等が主催する、地域住民を対象とした介護予防・認知症予防教室等へのスタッフ協力

を行います。

**３）「2025年問題」を見据えた新規事業等の検討**

　　　次回2021年度の介護報酬改定、福島県及び郡山市等の次期高齢者福祉計画・介護保険事業計画（2021年度～2023年度）に向けて、次のような対応を検討して参ります。

**①　現行事業の再編**

現在、特別養護老人ホーム80名、ショートステイ20名、デイサービスセンター30名など定員を設けている事業所について、稼働率、職員の充足率を勘案し、定員の変更等について検討を進めて参ります。

**②　新規事業の開拓**

　　　　法人の事業として、改定の度に報酬の引き下げが行われる「介護保険事業」のみを継続していくのか、介護保険以外の事業実施をも視野に、法人の業績の改善を目指すのかも含めて、新規事業の開拓を検討して参ります。

**⑵　各事業所別の主な事業計画**

**【法　人　本　部（全体的に関わる事業等を含む）】**

**１）建物設備の計画的整備**

　　　これまでも計画的に経年劣化やご利用者の使い勝手の問題、加えて職員の健康管理上の問題や事故防止対策等を踏まえ、施設の整備や修繕を行ってきましたが、2019年度においても継続して、開設から19年を経過して増加傾向にある経年劣化に対し、緊急性・重要性を勘案して優先順位を付けて適切に対応して参ります。特に、かねてより先延ばししてきた屋上防水シートの再塗布工事、デイサービスセンターフロアの日よけ対策を優先して実施します。また、前年に引き続き照明設備のＬＥＤ化による電気料金の削減を重点的に進めたいと考えております。更に、空調の省エネ対策などを行うとともに、必要物品の購入を行っていきます。

**２）変化への対応と基本の徹底**

　　　これまでも、毎月の会計事務所による経理指導を受けながら、適正な経理処理に努めてまいりましたが、2019年度も今まで同様、適切な経理処理と各種の契約内容の把握に努めるとともに、資金収支のバランス調整を的確に行っていきます。

　　　職員の有給休暇制度の改定（年5日の取得義務）や消費税の改定、新たな特定処遇改善加算への対応に加え、5月1日の改元に対しても、遺漏の無いよう対処して参ります。

**３）地域との連携強化及び交流の推進**

　　①　地域貢献という社会福祉法人としての使命を果たす上で、また非常時の際の相互扶助体制を円滑に進めるためにも、常日頃から地域の町内会、民生児童委員協議会、ボランティア団体、消防団、或いは近隣の介護福祉士養成校などの各種団体との連携が重要です。各種会合への会場提供や定期的な交流会の開催等により、連携の強化に努めていきます。

　　②　介護福祉士養成校をはじめ、各種教育機関からの実習等を積極的に受け入れるとともに、職員研修への講師招聘や当法人からの指導者派遣等を通して、相互交流を深めていきます。

　　③　当法人の各事業所のご利用者及びご家族並びに地域の方々に対し、常日頃の感謝の意を表すとともに、当法人への理解と関心を更に深めていただくため、4月には「スプリングガーデン（春の庭）」を楽しんでいただく「スプリングフェスタ」を開催いたします。

　　④　当法人が有する「介護」の知識と技術をより広く地域に役立たせていくため、認知症予防の「脳の健康教室」と転倒予防の「ふまねっと運動」を組み合わせた地域貢献活動として、「いずみ健康楽習塾」を引き続き開催いたします。併せて、地域の皆様の健康増進、認知症予防に寄与するため、「ふまねっと講演会」「ふまねっとサポーター養成講習会」を開催いたします。

**【特別養護老人ホームスプリングガーデンあさか**

**（短期入所生活介護を含む）】**

●　利用定員

・　入所　　　　　　　　　　　　８０名（現行８１名）

・　短期入所（ショートステイ）　２０名（現行１９名）

　　※　東日本大震災並びに福島第一原子力発電所の事故による避難者継続受け入れ中のため、入所定員を暫定的に調整しております。

●　職員数（平成2019年度配置予定）　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 合計 | 内訳 | 施設長  （兼務） | 副施設長(兼務) | 事務員  （事務長・  兼務を含む） | 生活  相談員 | 介護  職員 | 看護  職員 | 管理  栄養士 | 調理員（委託） | リネン  業　務  (委託） |
| ５ | 課長等 | １ | １ | 2 |  | １(兼務) | １ |  |  |  |
| ７７ | 職員 | 11 | 2 | 46 | 6 | １ | 10 | １ |
| ８２ | 計 | １ | １ | 13 | 2 | 46 | 7 | １ | 10 | １ |

**１）組織の再編と稼働率の安定的向上**

　　　2017年度（平成29年度）より「副施設長」を配するとともに「生活相談課」を「生活相談担当」として再編し、ケアサービス課等とのより密接な連携を図り、各職種・部署の適切な業務分担並びに医療機関、居宅介護支援事業所等の関係機関との連携によって、さらに迅速かつ効果的な空床補填に努めてまいりましたが、2019年度は更に効率よく退・入空床期間の減少に努めるべく、実態調査チェックリストの再整備、入居決定通知後の猶予期間の設定などを進めて参ります。

**２）サービスの質の向上**

　　　一人ひとりのご入居者の基本的な24時間の過ごし方と、そこにスタッフがいかに関わっていくかという「24時間シート」を施設介護計画の立案に際しより有効に活用することで、スタッフの経験や技術の差によるサービスの質・量の誤差を最小限にできるよう、スタッフのスキルの向上に努めます。

**３）自立支援介護の実践**

　　　13年目を迎える「学習療法」は、機能訓練指導員である看護職員が中心になって提供することによって、「認知症ケア」としての位置づけを確立するとともに、学習療法のコンセプトである「褒めて認める」「自信と意欲を引き出すコミュニケーション」「良いところ探し」を学習者以外の入居者ケアにも活かしていきます。

　　　また、歩行機能の低下は、転倒→寝たきり→生活意欲の低下→認知症→介護の重度化とつながる「高齢者負のスパイラル」の第一歩であることは広く知られているところであり、楽しく継続することで歩行機能と認知機能の維持・改善を図るプログラムである「ふまねっと」を、機能改善プログラムとしてショートステイを中心に定着させることができましたので、今年度は、特別養護老人ホームにも拡大して参ります。

**４）医療機関との連携強化と看取りケアの充実**

　　　寿泉堂綜合病院との更なる連携強化と効率化を図るため、平成29年度末から「電子カルテ」の導入が進められました。同時に寿泉堂綜合病院の対応困難時のバックアップ医療機関として、池田内科医院、岡沼内科往診クリニックと医務委託契約を結び、更に隙間の無い丁寧な看取りを進めて行くことができるようにもなっています。

看取りケアとは、ユニット、職種の枠を超えて施設全体で取り組むことを徹底するため、「スプリングガーデンあさかの看取り指針・マニュアル」整備し、ご家族が安心して看取りに臨めるよう主治医や医療機関からの情報を分かりやすくご家族に代弁出来るようにするなど、施設内の体制を構築します。

**５）感染症対策の徹底**

　　　平成29年度の年度末に発生した「疥癬」により、施設の経営に大きな支障をきたしました。命に係わる感染症ではないことがせめてもの救いではありますが、特養のほぼ三分の一にあたる人数が、感染もしくは感染の疑いという重大な危機となりました。その教訓を生かし、今期全国の医療機関・施設での集団感染が報告されたインフルエンザに対しては適切な予防ができ、施設内での感染を起こさずに済んでおります。

感染症の集団発生から時間が経過すると、経験者の減少や危機意識の薄れから再び集団発生の危険があることを肝に銘じ、常に感染症のリスクが施設内に潜んでいることを忘れず、定期的な感染症対応マニュアルの見直し、衛生研修会の開催によって緊張感を維持していきます。

**６）防災・被災対策**

　　　平成23年3月11日の東日本大震災を教訓に、これまで実施してきた火災対応の避難訓練に加え、地震、水害を想定した避難訓練、災害対応訓練の実施を目標とした29年度ではありましたが、十分な訓練が実施できたとは言い切れません。30年度も防災訓練の強化を目標として行きます。

　　　また、非常食をはじめとする非常用品（避難時の持ち出し物品、非常時の使用物品）のリストを整備するとともに、災害用備蓄食料や非常用発電機などの使用訓練を実施し、有事に使用できない状況を回避します。

**７）事故防止対策の徹底**

　　　2018年度（平成30年度）は、死亡や要介護度が変化するような重大事故の発生はありませんでしたが、介護事故の報告は毎日提出されています。必要時には「ユニット」の枠を超えた連携体制を構築することで、介護事故の減少に繋げて参ります。

**８）食事サービスの向上と栄養ケアマネジメントの充実**

　　　平成29年度からは㈱福豆屋に調理業務の委託先を変更しましたが、大きな支障もなく充実した給食支援が出来ているものと捉えています。

従って、これまで以上にご利用者お一人お一人の多様な嗜好、食事形態に対応できるような知識と技術を向上させ、介護、看護、生活相談などの多職種と適切に連携して、栄養状態の維持・改善を図ります。加えて、「水分補給、食事、運動、排泄」が健康維持の基本であることを再確認し、下剤に頼らない自然排便の誘引と併せ、口腔機能の維持改善による誤嚥性肺炎の予防や入れ歯の不具合から生じる精神的な不安定さの軽減を、「食」への支援の一環と認識して歯科との連携を図ります。

また、季節感を実感できる行事食の提供や、ご利用者参加型の調理なども進め、間接的に認知症対策にも寄与します。

**【スプリングガーデンあさかデイサービスセンター】**

●　利用定員　　　　　30名

●　営業日　　　　　　月曜日から土曜日

●　サービス提供時間　9時15分から16時20分

●　職員数（平成2019年度配置予定）　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 合計 | 所長  （兼務） | 副所長 | 生活  相談員 | 生活相談員  兼介護職員 | 介護職員 | 看護師兼機能訓練指導員 |
| 12 | （１） | １ | １ | 1 | 5 | 4 |

**2019年度のキーワードは《　お・も・て・な・し　》**

**☆おもてなしの心＝**

**裏表のない心で、良い意味でご利用者の期待を裏切れるサービス提供に努めます。**

**☆おもてなしの言葉＝**

**相手を思いやり、お掛けする言葉の大きさ、トーンにも配慮します。**

**☆おもてなしの態度＝**

**余裕を持ち、ご利用者を急がせず、ご利用者が声を掛けやすい速度でケアにあたります。**

**☆おもてなしの表情＝**

**落ち着いた表情により、ご利用者の安心に繋げます。**

**☆おもてなしの環境＝**

**くつろげる空間、安らぎの環境によるサービス提供に努めます。**

**☆おもてなしの味＝**

**味は勿論のこと見た目でも香りでも満足でき、それぞれの能力に応じた適切な食事形態及び栄養価による食事の提供を行います。**

**☆おもてなしの技**

**介護、看護、相談援助、リハビリ、それぞれの専門性を最大限に活かしたケアサービスの提供ができるよう、日々研鑽に努めます。**

**１）運営の適正化**

　　　平成30年度は、利用者の死亡、施設入所、転居による利用廃止が相次いだ上、ショートステイの利用割合の増加（日によってはスプリングガーデンあさかのショートステイの利用者15名中9名がデイサービスの利用者）などによって、利用者総数、稼働率を大きく低下させることとなりました。こうした状況を少しでも改善すべく、今年2月には、市内全ての居宅介護支援事業所と地域包括支援センターへ案内を送付し、22事業所より31名のケアマネジャーの参加を得て「ふまねっと説明会」を開催いたしました。参加者からは大変好感触を得ておりますので、今後も「ふまねっと」、「学習療法」といった事業所の特徴を積極的に外部へＰＲし、利用者の増加、経営の安定へとつなげていきたいと考えます。

　　　また、利用者数が少なくスタッフ数が配置基準を上回っている現状だからこそできることとして、地域の介護予防・認知症予防活動へのスタッフ派遣、法人内全事業所の入居者・利用者家族を対象とした「ふまねっと教室」の開催など、将来的に利用者となる可能性のある対象者と関わる機会を積極的に設けることといたします。

　　　反面、《事業を取り巻く環境》でも述べましたとおり、大幅な利用者増は厳しい現状であることも認識しており、2019年度は周辺状況も注視しながら、翌年度2020年度以降の利用定員の減員とスタッフ数の削減による事業安定も検討する一年として参ります。

**２）個別機能訓練プログラムとしての「ふまねっと運動」の積極的活用**

　　　平成29年度から、歩行機能と認知機能改善のためのプログラムである「ふまねっと」運動を、福島県のデイサービスセンターとしては初めて、機能訓練プログラムとして本格的に取り入れました。このプログラムは、新たな利用者獲得の切り札としても捉えており、スタッフには「ふまねっとインストラクター」の資格講習の受講を進めて参りました。その結果、平成30年度東北ブロック老人福祉施設研究会において福島県代表として事例発表を行い、最優秀賞を受賞いたしました。

2019年3月26日には、笹川地区の高齢者サロンでの開催と職員の派遣を予定しており、地域活動へのスタッ派遣も長期的な視点に立った利用者獲得につながるものと考え、積極的に進めて参りたいと考えます。

**３）個性的で魅力的な活動プログラムの提供**

　　　これまでも、ピザ窯の設置によるピザパーティーの開催、田んぼアート、つつじ園などへの外出企画などの余暇活動的プログラムの創出に留まらず、レギュラーコーヒーのコーヒーサーバーの設置や、陶器のマグカップの導入などを実施し、大変好評を得ることができました。

2019年度は、新たにJOYSOUND（通信カラオケシステム）の「高齢者向け音楽療養コンテンツ《健康王国》」の導入により、体操プログラム、映像プログラム、音楽プログラムなどを拡充し、多様な利用者ニーズに呼応できるようにして参ります。

**４）学習療法の充実**

　　　事業所の特徴的プログラムの一つとしてアピールするためにも、近隣施設に先んじて13年前に導入した学習療法の充実は不可欠です。

学習療法センターとの連携も良好ですので、今後も、他の導入施設との積極的な情報交換や学習療法センターとの連携により、さらに効果的な学習療法の提供に努めます。

併せて、居宅介護支援事業所のほか、介護を学ぶ学生等に広く周知し、利用者獲得のみならず、求人・広報にも活用できるようにしていきます。

**５）職員の資質の向上による上質なサービスの提供**

　　　職員一人一人が毎月の目標を設定し、実践、自己評価、他者評価をすることで、確実なスキルアップと目標達成を図ります。また、事業所内、法人内及び外部の研修に積極的に参加することでも職員の能力向上を図り、利用者サービスの質の向上につなげます。

　　　特に、リハビリテーションの定期的な研修機会を設け、看護職員の割合が高いという特性をより活かせるよう、努力して参ります。

　　　また、スタッフのホスピタリティの向上の一助として、JTBの主宰する「おもてなし検定」の受検を進めて参ります。

**６）利用者、家族との適切な関係構築**

　　　日常のサービス利用時はもちろん、サービス担当者会議の機会を有効に活用するとともに、送迎時の情報交換や連絡帳を最大限に活かし、利用者本人はもとより、家族とも良好な関係構築を進めます。個別機能訓練計画策定のための機能訓練指導員の家庭訪問が必須となりましたので、生活相談員が中心で参加していたサービス担当者会議に、平成30年度からは、機能訓練指導員としての看護職員が参加する機会も増えたため、よりきめ細やかな情報収集、情報交換が可能となっています。

　　　在宅サービスの利用に際しては、入所系のサービス利用と異なり、契約もサービス担当者会議も利用者の自宅で行うことが多く、利用施設の場所もサービス内容もご自分の目で確認したことの無いご家族が少なくありません。ご利用時の様子を見ていただき、率直なご意見ご要望を拝聴し、サービス向上につなげる機会として「参観日」の開催も企画して参ります。

**【スプリングガーデンあさかホームヘルパーステーション】**

●　営業日　　月曜日から金曜日（土、日は、相談のうえ利用可能な場合あり）

●　営業時間　9時から17時（相談のうえ8時から18時30分の間の対応可）

●　職員数（平成2019年度配置予定）　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 合　　計 | 所　　長  （兼ヘルパー） | 常　勤  ヘルパー | パート  ヘルパー | 登　録  ヘルパー |
| 24 | １ | 3 | １ | 19 |

**１）運営の適正化**

　　　ホームヘルプサービスは、かねてよりショートステイ、デイサービスと並ぶ「在宅三本柱」と位置づけられ、当法人の在宅サービスを全て利用している利用者が少なからず存在する現状において、いずみ福祉会として重要な在宅サービスの一つであることを自覚し、更なる要員の確保と業績の向上に努めて参りたいと考えます。

**２）サービスの質の向上**

実際にサービス提供にあたるホームヘルパーについては、月例研修会等　でカンファレンス・ケース検討会を開催し、情報共有や意見交換を行いながら、マナー、一般常識並びに専門知識の向上を図ると同時に、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなど法人内他事業所のベテラン介護職員の指導を受けるなど、介護技術の向上にも努めてまいります。

　　ホームヘルパーの業務を統括するサービス提供責任者は、定期的なご利用者宅訪問によるモニタリング、或いは年に1度実施しているアンケート調査によって、ご利用者並びにご家族の介護ニーズの適切な把握に努め、収集した情報は適切にホームヘルパーにフィードバックすることで、ご利用者満足度の向上に努めます。また、訪問介護とは、事業所建物外での活動が中心であることから、法人の営業職としての役割も担っていることを十分に理解し、訪問等で得た情報を、居宅介護支援事業所や、連携の必要なサービス提供事業所とも共有し、単一事業所としてのみならず、「いずみ福祉会」としてご利用者・地域・行政機関等からの信用・信頼の獲得に努めます。

**３）登録ヘルパーの確保**

事業所の統合によって登録ヘルパーが倍増した平成30年度は、大きく収入を伸ばしました。人員がいれば収入が上がることは明らかですので、今年度も、通常求人に加え他の事業所の動静を注視し、登録ヘルパーの増員を目指します。現在、当事業所の登録ヘルパーの平均年齢は64.8歳のとなっており、新規の登録ヘルパーの確保は、現職の健康管理上並びに近い将来必要に迫られる世代交代の面からも急務と言えます。

**【スプリングガーデンあさか指定居宅介護支援事業所】**

●　営業日　　月曜日から金曜日

●　営業時間　8時30分から17時30分

●　職員数（平成2019年度配置予定）　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 合　　計 | 所　長（兼介護支援専門員） | 介護支援専門員 |
| ３ | １ | ２ |

**１）在宅介護の管制塔としての機能の充実**

　　平成27年度の第６期介護保険事業計画から正式に制度化された「地域包括ケアシステム」の構築に積極的に参画し、関係機関との適切な連携によって、地域住民の介護ニーズの掘り起こし、介護課題の解決に向けた積極的なアプローチ、介護ニーズと解決可能なサービス提供機関とのマッチング及び、有効な情報の収集と発信など、在宅介護の管制塔としての機能を充実させます。

**２）個々のケアマネジメント力の向上**

　　１）を実現するためにも、個々のケアマネジメント能力の向上は不可欠です。施設内外の研修に積極的に参加することと併せて、事業所内の日々のOJTによって、個々の資質向上に努めます。

**３）法人内事業所との連携**

　　朝礼や管理者会議等の機会を通し、いち早く関係機関からの情報の収集と情報提供に努めるほか、法人内の事業所を利用されているご利用者やご家族の情報は当然のこと、当法人のサービスの利用は無いが、他のサービス事業所の適切な対応で改善に至った事例や、逆に対応困難に陥った事例の紹介などを行う研修会の主催などを通し、法人全体のレベルアップに寄与して参ります。

　　また、法人内の複数の事業所を利用されている方の情報共有の機会を創設することができましたので、これをリードし、法人内の在宅介護サービス提供事業所間のマネジメントも進めていきます。

**【グループホーム　すぷりんぐ】**

●　利用定員　　18名

●　職員数（平成2019年度配置予定）　　　　　　　　　　　（単位：人）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 合　　計 | ホーム長 | 副ホーム長 | 介護職員 |
| １６ | １ | １ | 14 |

**１）適切なサービスの提供**

　　心身状態の変化が表れにくい、状態の日内変動が大きいといった認知症高齢者の特性と併せて、個々の心身能力の確認を常に行いながら、過剰な介護に走らず「自立支援」を念頭に日々のケアを提供して参ります。同時に安心な施設生活が送れるよう、自力歩行者が多いために起こりがちな転倒事故をはじめとする事故防止に努めます。平成29年度から転倒事故の予防を目的に導入した「ふまねっと」を積極的に運用し、運動機能の向上と合わせて事故防止を図って行きます。

　　また、季節を知覚できる行事の開催や、施設外活動の提供を積極的に行うと同時に、認知症の予防と改善のための「学習療法」を活用し、日常生活能力の向上を目指します。

**２）人材の育成**

　　積極的な事業所内外の研修への参加や、日々の業務の中でのOJTを通し、職員の知識・技術の向上を図るほか、定期的なフロア会議によってチームワークの醸成に努めます。また、適切な介護機器の導入や職場環境の改善を図り、職員の業務負担を軽減します。

**３）安心、安全な生活の提供**

　　定期的な設備点検を実施するほか、東日本大震災や、尊い人命が失われた他のグループホームでの火災を教訓に、毎月１日を「防災の日」として防災訓練を実施し、職員、ご利用者の防災意識の向上と安全確保に努めます。

**４）医療連携体制の維持**

　　いずみ訪問看護ステーションとの連携により、ご利用者の健康管理を行い、健康異常の早期発見、早期治療を心がけることで、入院による空床の拡大を防止します。

**⑶　2019年度（平成31年度）設備投資等計画**

　　前述の事業計画を推進するため、事業所ごとに次のような修繕・設備工事及び備品等の購入を予定しています。

**【特別養護老人ホーム（短期入所生活介護を含む）】**

　（修繕・設備工事）

　　　・ＬＥＤ照明切替（居室、リビング、通路等）

　　　・館内空調設備整備（居室、通路交換・修理）

　　　・入居者居室整備（ウォームレット、洗面台混合詮交換）

　　　・ナースコール設備（ＰＨＳ入替、アンテナ増設）

　（備品等）

　　　・コミュニケーションロボット　１台

　　　・座位保持車いす　　　　　　　２台

　　　・ユニットリビング用ソファ　　３脚

　　　・ユニットリビング用テーブル　４卓

　　　・リクライニングチェア　　　　１脚

　　　・ユニット用炊飯器　　　　　　１台

　　　・ベッド用サイドセンサー　　　４台

　　　・厨房用４段式シェルフ　　　　１台

　　　・ステーション用冷蔵庫　　　　２台

**【デイサービスセンター】**

（修繕・設備工事）

　　　・ホール天井部遮蔽

　　　・天井シーリングファン設置

　　　・入口洗面台増設・リニュアル

（備品等）

　　　・レクリエーション用音響機器　１台

　　　・移乗用移動式リフト　　　　　１台

　　　・３人掛け用ソファ　　　　　　２脚

　　　・ノートパソコン　　　　　　　１台

　　　・デジタルカメラ　　　　　　　１台

**【ホームヘルパーステーション】**

（備品等）

　　　・デスクトップパソコン　　　　１台

**【居宅介護支援事業所】**

（備品等）

　　　・事務用椅子　　　　　　　　　３脚

**【グループホーム】**

（修繕・設備工事）

　　　・電話システム切替

（備品等）

　　　・オーブンレンジ　　　　　　　２台

**【地域貢献・地域交流】**

（備品等）

　　　・ふまねっとセット　　　　　　１組

　　　・プロジェクター　　　　　　　１台

　　　・ビデオカメラ　　　　　　　　１台